

NEWSLETTER



大阪女学院大学 大阪女学院短期大学

教 員 養 成 セ ン タ ー

● 創造的実行力とハーモニーの礎 1	● 参加者から寄せられた声 4
● 基調講演「明日からの授業実践のために」報告 2	● 合宿スナップ写真 5
● 実践発表「こんな授業はおもしろい！」報告 3	● 今後の勉強会予定 6
● ディスカッション「みんなで知恵を出し合おう！授業の悩み」報告 3	● 教員免許状更新講習1／授業デザインスキルアップ演習 6

創造的実行力とハーモニーの礎 —— 「英語の教え方教室」合宿 in 近江八幡

中井 弘一

これまで3年間の21回、学内で行ってきた勉強会「英語の教え方教室」を本学キャンパスから離れ、滋賀県の“へその地”である近江八幡において「合宿」スタイルで、この5月11日(土)・12日(日)に行った。当日、やむを得ない事情で2名欠席された方もおられたが、最終的に27名の参加状況であった。初の試みとして予想を上回る参加者を得たことは、運営幹事の中西、二森先生の尽力のおかげである。お礼を述べたい。また、参加いただいた皆様のご協力を得て本合宿勉強会が意味のある集いになったことは喜ばしい限りである。

さて、今回の勉強会を振り返ると、二つのテーマを基調として話し合ったと思われる。一つ目のテーマは「創造的実行力」である。私自身、この「創造的実行力」を英語授業哲学の基本理念として、どう教員は授業に臨むべきかを話した。そのあとに話された松川先生の実践報告も、「創造的実行力」に基づいた内容であった。二人の講演・発表の内容は次ページ以降にまとめるとして、この「創造的実行力」とはどういうもので、どう身につけるべきものであろうか。

【創造】とは、新しいものを初めて作り出すこと、【実行力】とは、実際にそのことを行える能力、計画などを実行に移す力で、行動力を伴うものである。「創造的実行力」とは、急激に変化するグローバル化社会に必要な生きる力であり、「問題を発見し、ビジョンを持って、めざすべきゴールを定め、ゴールに向かって邁進する」問題解決・課題解決に必要な力である。英語教育における「創造的実行力」とは、教材に対し「何が問題か？何を学ばせるべきか？」を明らかにすることがその基本である。自分の知識、経験、思考・想像力を総動員し、教材を多角的に読み取る。あれやこれやと教え込むことでなく、その教材に何を読み取るか、まず「めざすべきゴール」を明確にすることであろう。また、一人の考えでなく、他の人の考えなどと対比させ、自分が思いつかなかったことに気付かせる、そして互いに批判する。ことばが伝える状況やイメージを生徒がしっかりとつかめるように言語活動を活性化させ、生徒の学びがその教材の響きと共鳴できるように工夫し実践することであろう。これらを実践するには、Wallas Grahamの創造の4段階である(i) preparation, (ii) incubation, (iii) illumination, (iv) verificationのプロセスが必要で、すなわち、ハテ？と思う観察力・注意力、旺盛な好奇心と探究欲求、豊富な知識と経験による「準備の段階」、

課題に対する集中心と粘り強い態度、情報をうまく整理・分類しておく能力、思い切った気分転換による「温めの段階」、型にはまらぬ柔軟な思考、豊かなアイデアとイメージ、独創的な判断などによる「ひらめきの段階」、分析力と総合力、再構成する能力、冷静な評価能力などによる「検証の段階」を通して産みだしていくことになる。

もう一つテーマとなったものは、同僚性であった。同じ学年の担当者であっても協働して教材開発するには相手の壁が高く、授業の進め方を共有することが難しいという意見が参加者の先生から寄せられた。補助プリント・ワークシートの共有フォルダーボックスを設置して誰でも気軽に活用できるように工夫しているという報告もあった。教員一人ずつの考え方や指導方法は年を経る毎に固定化する傾向がある。一家言を持つことは、必ずしも悪いことでなく経験に基づいた教育理念・信念でもある。むしろ、金太郎飴のようにどの先生も同じ顔で同じ教材を使って授業を行うというのは、教育の管理主義に陥るかもしれない。それゆえ、和音が美しいメロディを奏でるように、音調が異なる人がともに重なり合って音を紡いでいくことが大切ではないか。共通の曲を混声合唱で演奏するのである。ただ、ハーモニーが美しく響くためには、音程が調和していなければならない。やみくもに演奏するのでなく、教材のねらい、進度予定、活動の効果、プリント配付などそれぞれの指導やワークシートなどに対するprinciplesを明確にすることである。それらが明確であれば音を合わせるができる。共有するということは、ハーモニーの礎を築くことであり、同化するのではなく調和を持つことである。相手を納得させる、いや共鳴させるprinciplesをもって話し合っていくことが望まれるであろう。

